

「一年を振り返って」

滝川市ボランティア連絡協議会

会長 岸 部 三和子

今年の冬は30数年ぶりの記録的な大雪に見舞われる中、皆様におかれましては、ボランティア活動に深いご理解とご協力をいただき、衷心より厚くお礼申し上げます。

さて、今年度も関係諸団体のご協力を得て、ボランティアスクールを開催いたしました。

第1回目は、赤十字健康生活支援講習会「災害時高齢者生活支援講習」で、災害時の避難所生活における毛布等での体の保温方法、リラクゼーション方法を、実技を通してご説明いただきました。

第2回目として、富良野自然塾副塾長 林原博光氏から『地球は子孫から借りているもの』というテーマでご講演いただき、閉鎖されたゴルフ場に植樹をして森に還す『自然返還事業』を運営し、未来の子ども達に引き継ぐようにと活動の場を通して大変貴重なお話を聞くことができました。

第3回目には、日本赤十字北海道看護大学 教授 根本昌宏氏による『避難所運営ゲーム（HUG）北海道版』D.O.は、研修を行いました。市民の避難所生活や避難所運営を自分事としてとらえ、ゲーム感覚で模擬体験することができました。

これらのスクールを通して、皆さんと共に支え合い、助け合う「互助・共助」の気持ちをもって活動が続けてまいりたいと思います。

「ボランティア活動に一歩踏み出し 安心と安全なまちづくりを」

社会福祉法人滝川市社会福祉協議会

会長 椿 坂 幸 夫

地域に根ざした奉仕活動を展開されて25年間の足跡を辿る、滝川市ボランティア連絡協議会に結集する皆様に、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

私たちを取りまく環境は、科学や文化の急激な発展と共に、社会構造や人間の価値観までもが急変を示し、家族関係や地域の絆（助け合い）など、早急に取り組まなければならぬ今日の福祉課題が、痛ましい事件・事故として連日報道されてもいるところでもあります。更に、これら福祉課題解決には、地域住民が日常生活の一環として「誰もができるボランティア活動」を展開されることが絶対必要条件であるともいわれています。

市民の皆様がボランティア活動に一歩踏み出すことによつて、人間関係の輪（絆）が広がり、地域に活力が蘇り「安心と安全なまちづくり」が実現できるのです。

滝川市ボランティア連絡協議会の更なる発展と、市民の皆様の一層のご理解とご協力をご期待申し上げます。

視察研修



滝川身体障害者福祉協会

高野 聖 美

11月2日社協前から参加者15名が3台の車に分かれ、消防本部へ行きました。担当者の方の案内を受ける中、始めに12mもあるボルダリングがありました。今までより広域が芦別市、赤平市と加わり、夜勤の人たちの個室、シャワー室、ロッカー室、通信室、会議室等も広くなり、大・小の消防車、救急車どれを取っても最新式の良いものが揃っていました。

次にグループホーム土筆の郷を施設長さんの説明で案内を受けました。建物は合理的でとてもきれいに出来ています。機能もグループホーム、通所介護、認知症対応、訪問入浴、すべて送迎付で大変便利になっています。

昼食は障害者のお店（ランチカフェすばらうと）で日替わり弁当を頂きました。シニア向きで完食でした。

午後から滝川中央病院に行き、事務課長さんから病院の概要、取り組み等の説明を受け、2班に分かれ見学をしました。軽食、喫茶、売店、広い体育館ありで、一般外来も歯科、内科、物忘れ外来等がありました。

各精神科病棟のディケアルームでは手芸、お絵かき、読書等自由に過ごしていました。

最後に病院前で集合写真を撮り終了です。どの施設も今後お世話になるでしょうけど、いつまでも健康に気をつけ、お世話になりたいくなくとも思いました。楽しい視察研修でした。

ボラ、ニティースクール



第1回「災害時高齢者生活支援講習」



第2回「地球は子孫から借りているもの」



第3回「避難所運営ゲーム（HUG）北海道版」

